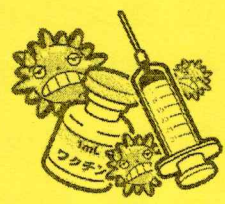




インフルエンザ予防接種 説明書



1 インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気で、高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身症状が現れます。併せて、普通のかぜと同じようにのどの痛み、咳、鼻水等の症状もみられます。普通のかぜに比べ全身症状が強く、気管支炎や肺炎等を合併し、重症化することが多いのが特徴です。

2 インフルエンザの予防法

人ごみを避け、日頃から十分な栄養や休息を取ることが大切です。感染の広がりには空気の乾燥が関連します。室内では加湿器等で加湿しましょう。外出時のマスク着用や帰宅時のうがい、手洗いを併わせておすすめします。

3 予防接種の有効性

高齢者の発病防止、特に重症化防止に有効であることが確認されています。接種を受けてから抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月間とされています。より効率的に有効性を高めるには、毎年流行する前の12月中旬までに接種を済ませておくことが望ましいと言われています。

4 予防接種の副反応

接種部位の赤み、腫れ、痛みが主な副反応です。また、発熱、寒気、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、通常2～3日のうちに治ります。

非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

5 接種を受ける前に

(1) 一般的注意

この説明を読んで、必要性や副反応について、分からないことがあれば、担当医や看護師に質問しましょう。十分に納得してから接種を受けてください。予診票は接種をする医師にとって、大切な情報です。責任を持って記入し、現在の健康状態を正しく伝えてください。